

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-190	20-027	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
題名（原題／訳）		
Motivation to Quit Drinking in Individuals Coinfected with HIV and Hepatitis C HIV /C 型肝炎の共感染者における禁酒への動機		
執筆者		
Hayaki J, Anderson BJ, Herman DS, Moitra E, Pinkston MM, Kim HN, Stein MD.		
掲載誌		
AIDS Behav. 2020 Jun;24(6):1709-1716. doi: 10.1007/s10461-019-02709-z.		
キーワード		PMID
動機 アルコール摂取 HIV/HCV の感染症		31642998
要 旨		
目的： HIV/C 型肝炎の共感染者は有害な影響があるにも関わらず多量飲酒をすることが多いが、減酒または禁酒を促す要因についての知見は少ない。この研究では HIV/C 型肝炎の共感染者における禁酒の動機について調査を行った。		
方法： 2015 年 5 月から 2017 年 6 月の間に 3 つの HIV プライマリーケアクリニックから参加者を募り、条件を満たした HIV/C 型肝炎の共感染者 110 人が対象者となった。参加者は、90 日間の飲酒頻度（アルコール使用日、乱用日、および 1 日あたりの平均飲酒量）、アルコール関連の問題（健康や家族関係、精神状態の悪化）、禁酒の理由、飲酒する理由、および禁酒の動機は、Thoughts About Abstinence (TAA) scale を用いた自己申告にて報告した。禁酒と動機の関連を共変量での未調整と調整で評価するために最小二乗回帰を使用した。		
結果： 参加者は過去 90 日間のうち平均 54.1 日（±26.9 日）アルコールを摂取した。人口統計学的変数で調整した多変量モデルでは、禁酒の動機はアルコール関連の問題（ $\beta_{y-x} = 0.35$ 、 $p = 0.007$ ）および禁酒の理由（ $\beta_{y-x} = 0.23$ 、 $p = 0.021$ ）と直接正の関連を認め、対処のための飲酒（ $\beta_{y-x} = -0.36$ 、 $p = 0.004$ ）とは負の関連を認めた。		
結論： アルコールを摂取する HIV/C 型肝炎患者において、アルコールに関連した有害な問題を認め禁酒を支持する群は、支持しない群と比較して、飲酒をやめる動機が高くなることが示された。		